

5 月・6 月で、既に 9 個のレメディを学びました。

Acon. Bell. Arn. Calen. Hyper. Bry. Rhus-t. Nux-v. Ars.

いずれも急性病（症状）によく活用されるレメディです。

でも、これらのレメディは「急性病」にのみ使うわけではありません。どのレメディも慢性病（症状）にも活用されます。慢性病においても「Acon.」や「Arn.」を必要とする人は、おられます。

一部の症状だけにアプローチする現代医療と違い、ホメオパシーでは、いつも「症状の全体像（全体性）」に注目します。

では「全体像とは何でしょうか？」一体、どこからどこまでを「全体」と捉えたら良いのでしょうか？

これは、今後、みなさんにとって、とても大切なテーマです。

今月はブルーピング実習をします。その実習からも「全体像・全体性」を考えて頂くことになるでしょう。

ホメオパシーでは、急性病と慢性病は、区分してアプローチしてゆきます。
その見分け方は、もう少し、先で学びます。

一般に、急性症状においては、「CLAMS」に注目して下さい。これが、急性時の「全体像・全体性」になります。

C=Concomitant 付随症状

L=Location 部位・位置

A=Aetiology 原因（誘引・要因）

M=Modality 好転・悪化要因

S=Sensation 感覚

（Home Work～提出する必要はありません。）

ご自身や身の周りの方に不調が起きた時、CLAMS でまとめてみて下さい。

～セルフケア時にレメディを処方する前に、まずは、メモしておく癖を付けてみて下さい。